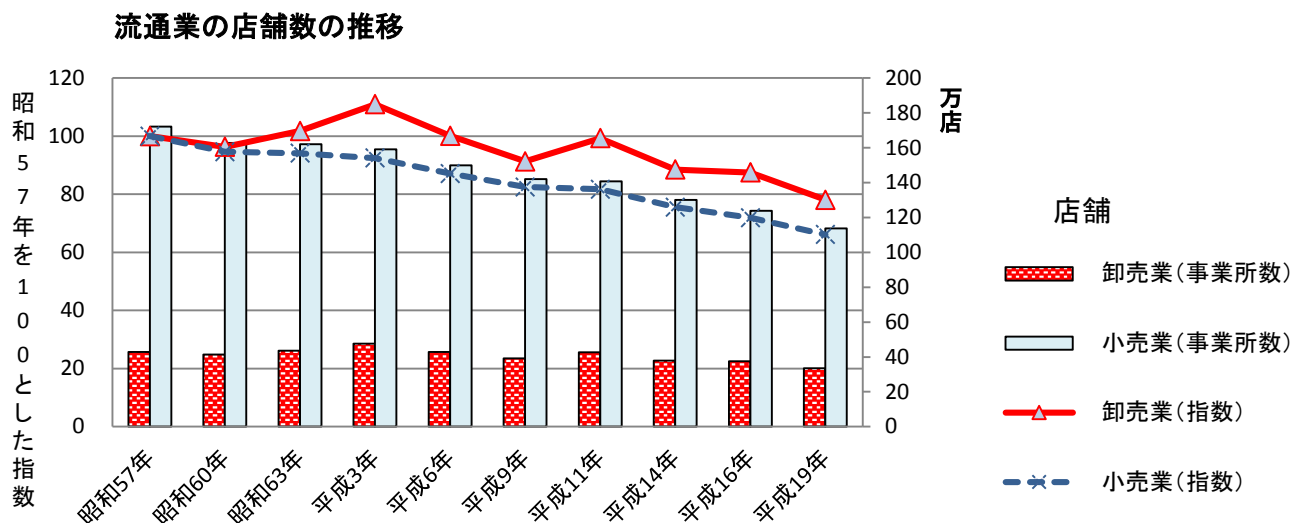


1. 流通業の現状

1-1. 商業統計表から目で見える卸・小売業

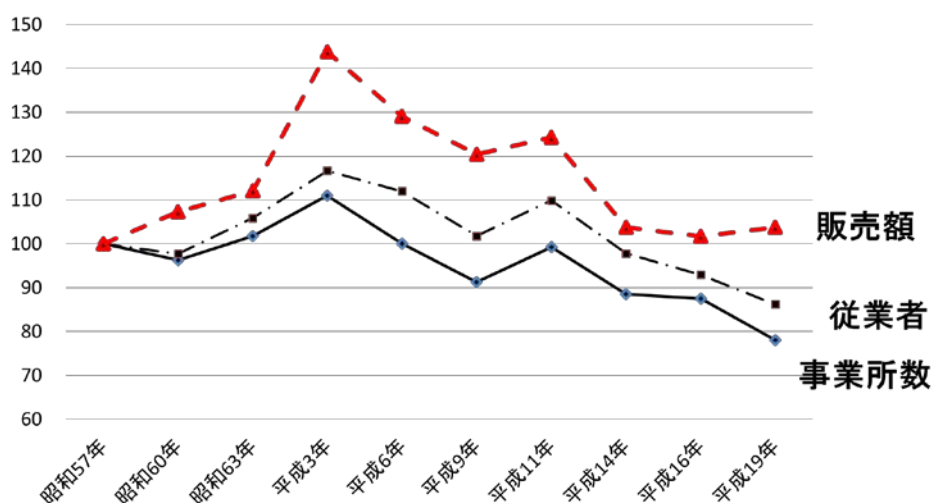
(1) 減少続く流通業の店舗数



卸売業・小売業ともに店舗数は減少傾向で、昭和57年を100とすると、平成19年で卸売業の店舗数は▲22ポイント、小売業では▲34ポイント下がっている。これは実に卸売業では5店舗に1店舗が、小売業に至ってはその3分の1が閉店となっている事になる。

店舗実数で見ると、卸売業では昭和63年では436,421店だったのが平成19年には334,799と、101,622店がこの20年で減少し、毎年約5,000店のペースで減っている。小売業では、昭和63年では1,619,752店だったのが平成19年には1,137,859と、481,893店がこの20年で減少し、毎年約24,000店、毎月2,000店のペースで減っている。

(2) 卸売業の傾向 昭和57年を100とした指数



昭和57年以降の卸売業の推移をみると、事業所数、年間商品販売額、従業者数のいずれも平成3年をピークとして減少傾向にあるものの、年間商品販売額は平成19年に増加に転じている。これらの事から、事業所当たりの年間商品販売額や従業員一人当たりの年間商品販売額は増加傾向にあると言え、規模の拡大と効率の向上が求められていると言える。